



## 林 長蔵 先生を偲んで

小川善資  
生物試料分析科学会・理事長

本学会創設者で、名誉会長・林 長蔵先生は2014年11月7日〈金〉大腸癌のため、ご逝去されました。ここに、謹んでお悔やみ申し上げます。

私が今日在るのは林 先生のお陰です。初めて林 先生にお会いした頃の私は何よりも遊ぶことが好きで、ある時は麻雀、ある時はビリヤードと遊んでばかりでした。私が試薬メーカーの営業担当者で、精度管理用血清採取のため、勤務している会社が企画した勉強会の学術顧問としてお越しいただいた時です。会場は阪大病院の会議室をお借りし、実施しました。話題は酵素活性測定値の施設間差の問題でした。病院によって測定値が2倍、3倍相違しているのが当たりまえの時代でした。どうしてこんなにも相違するのか訳が分からず、先生方の発言を真剣に聞きましたが、明確な原因は分かりませんでした。鬱屈した思いで後片付けをし、プロジェクターなどを検査部にお返すため、キャスターで運びました。その途中、病院内の大きなガラスドアをキャスターにて破壊してしまいました。慌てて、林 先生の元に謝りに行きました。近寄りたがたい高名な先生に、きついお叱

りを受けるものと思って行ったところ、あっさりと許していただきました。それどころか、応接室で「お茶でも飲んで行きなさい。」という優しいお言葉をいただきました。優しくされると付け上がるのが私の悪い性格で、勉強会の内容に関して質問したのですが、営業担当者としてあるまじき発言でした。「先生方はお金をいただいて酵素活性を測定しているにも関わらず、1単位が何たるかハッキリしていないのですか。」今考えても、よく言ったなと思いますが、これに対して「その通りだ、君がここに来て、1単位は何かをハッキリさせなさい。」と言われました。これがきっかけで私が大阪大学医学部附属病院に就職しました。この様な私に、3名の先生方を紹介するから、それぞれの先生の元に勉強に行きなさい。「酵素のことは大阪大学蛋白質研究所・堀尾 武一 教授（後の副学長）、ASTのことは医学部第2薬理学教室の和田 博 教授、分光光度計のことは大阪大学工学部 南 茂夫 教授（日本分光学会会長）の所に行きなさい。」と言われたのです。しかし、私は酵素の「こ」の字も、臨床検査の「り」の字も分かっていませんし、職位も非常勤職員にもなることもできない身分でした。この様な私なりの矛盾に満ちあふれた環境下で、作業の進展のないことに対して、頭の上からものすごい罵声を浴びました。「この環境にはとても馴染むことができない。」と何度も挫折しそうになりました。しかし、そのお陰で、様々な遊びと決別することができました。酵素活性の標準化は「林先生の信念」、いや、「根性の塊」でありました。この姿勢に、いち早く協力してくださったのは故・菅野 剛史 先生でした。慶応大蓼科山荘にて、「施設間差是正」をテーマに、夏期セミナーを開催していただきました。その後のことは多くの方がご存じの通りの経過をたどり、今日では実質上の施設間差はなくなりました。林先生はB-Hメータの開発（ビリルビン測定装置）をはじめ、多くの成果を成し遂げられ、臨床検査の一時代を作られ、素晴らしい業績を上げられました。今でも、仕事から逃避し、だらしのないことをしていると、林先生の罵声が飛んでくるように感じます。先生と出会い、これまでに賜ったご指導、ご鞭撻に対し心より感謝を込めて追悼の言葉とさせていただきます。

#### 略歴

昭和25年 2月	大阪大学附属薬学専門学校卒業
昭和25年11月	薬剤師免許交付
昭和31年 4月	国立大阪療養所薬剤部
昭和35年 2月	医学博士（九州大学）
昭和36年 8月	国立大阪病院臨床検査科
昭和41年10月	大阪大学第3内科 助手 中央臨床検査部 助手、講師、助教授兼副部長
平成元年 4月	大阪府立済生会中津病院 顧問
平成10年 3月	大阪府立済生会中津病院 退職